

i n f o r m a t i o n



埼玉県のマスコット「コバトン」

花とみどり

Vol. 65
2012.2.29



埼玉県の盆栽は、EU諸国を中心に年間約6,000鉢が輸出され全国1位の実績を誇っています。



埼玉県花と緑の振興センター

彩の国

生産者紹介

●第20回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール 農林水産大臣賞受賞者

有限会社横川花園 代表取締役 **横川 保次氏**

チューリップ切花の産地深谷で、ユリ、チューリップを鉢物として商品化し、新技術の導入や施設の有効利用により安定した生産体制を整備して成功を収めていること、地域の生産振興や後継者育成に活躍していること、過去3年間の出荷数量、経営収支ともに安定していることが高く評価され受賞されました。



■経営・技術の特徴

高校卒業後、民間企業に就職し、その後、自ら東京都内でフラワーショップを経営し、その中で消費者のニーズに合った商品企画の重要性を学び、31歳で就農しました。

現在、ユリ、チューリップ、ギボウシなどの鉢物を年間35万鉢出荷しています。経営の主力のユリについては、オランダ国際球根協会に入会し、定期的にオランダへ出向き、鉢物向きの品種の情報収集を行っています。また、球根の冷蔵処

理、温室の温度管理、日長処理などにより、周年出荷を実現しています。そのほか、地元深谷市がチューリップ切り花産地であることの利点を生かし、チューリップの鉢物生産をユリとともに経営の主力商品に育て上げたほか、ユリ、チューリップでは県のエコファーマーの認定を受け、環境に配慮した農業生産を行っています。今後も新たな商品を生み出すため、日夜研究・開発を続けていきたいと意欲的です。

～安行園芸センター～ 若きホープ紹介 vol.2

花と緑の振興センターに隣接する「農事組合法人あゆみ野農協安行園芸センター(森田賢治代表理事)」組合員として活躍する若き担い手を前号に続き紹介します。

フーリアード 担い手 **小林 進一氏(37才)**

川口市安行で、西洋シャクナゲ40種以上を主力に家庭需要向けのコンパクト鉢物から公共緑化用の中低木に至るまで生産販売を手がけ、ほ場(小林植木)では春の掘取出荷を控え、忙しい時期を迎えています。

4月からオランダで開催される「フロリアード2012」では実行委員としてあゆみ野農協安行地区壮青年部を代表し、出展植木管理を担当して東奔西走の毎日です。また日夜、園芸センターでの業務や埼玉県植木生産組合連

合会などの県生産振興課が推進する担い手活動とともに、県みどり再生課の県民提案事業を活用したPTA活動による母校安行東小の校庭芝生化や安行オープンガーデンに積極的に参画したりと地域活動に頑張っています。さらに父進氏は安行みどりのまちづくり協議会の会長として赤堀用水沿い斜面の「イチリンソウ」保護活動(万葉植物園)に尽力するなど、家族ぐるみで地域を支えます。



フロリアード出展作業(小林植木)

～オープンガーデン～ 植木の里安行を地域興し!

🍷昨年度秋～新規オープン～

現在、県内ではオープンガーデン設立の動きが各地に芽生えてきています。花と緑の振興センターでは、これらの取り組みを生産振興に繋げるため、地元造園事業者への働きかけと支援を行ってきており、昨年度、安行の地においても新規開設の運びとなりました。植木の主産地である地域性を活かし、一般家庭の他、植木生産者や造園事業者などのプロの職人さんの庭園がみられる全国に先駆けたオープンガーデン(66者参加)です。(実施主体:「安行」緑と環境の街づくり協議会(事務局:川口市造園業協会))

🍷拡がる活動の環

今までに昨年度秋、本年度春・秋と、3回実施されました。本年度からは、地元中学校(安行中・安行東中)や地域の皆さんが参画し、案内看板等を手づくりし来園者を出迎えたり野

点をしたりと、緑化産業振興と街おこしが一体となった活発な活動が展開されています。さらに、この秋からは期間中、当センターで実施している園芸ボランティアによるトレッキングと併せて、県交通政策課が期間中無料巡回バスを運行するとともに、「ようこそ「植木の里安行」魅力発信実行委員会、(株)川口緑化センター主催」によるマイクロバスツアーが行われるなど、活動の環が大きく広がりを見せています。

🍷今後の活動展開

「埼玉県中どこでもオープンガーデン」を目指し、今後こういった取組みが、花と緑を育てる県民意識の高揚や県産花植木の一層の生産振興に繋がることを願っています。



安行東中による野点(好樹園にて)

盆栽の輸出と 線虫防除

埼玉県の盆栽は、ゴヨウマツ、シンパクなど約60品目が11カ国に輸出され、輸出実績は年間約6,000鉢で、全国1位となっています。盆栽の主な輸出先は、スペイン、イタリアなどEU諸国で、EU以外では台湾、韓国などです。花と緑の振興センターでは輸出促進に向け、輸出先の要望にこたえた、様々な取り組みを行ってきました。現在は、輸出のための栽培地検査を共同で実施する組織（埼玉県輸出盆栽研究会）を設立し、栽培地検査補助員が年6回栽培地検査を実施しています。また、平成20年11月、EUに輸出された植木からゴマダラカミキリが発見され、EU内での拡大が懸念されたため、ゴマダラカミキリ属の寄生植物であるカエデなど16属1種の輸出が制限され、該当する植物は網室で2年間栽培することが義務づけられました。このため一時的に輸出は停止しましたが、現在は網室栽培が定着しつつあり、2010年末にはモミジの輸出が再開しました。



網室栽培の様子

ところが、次は土壌線虫が問題となりました。平成20年7月ベルギーで土壌線虫が発見されたため日本産の植木・盆栽類の輸出禁止措置がとられました。日本とベルギーで協議の結果、EU加盟国に輸出する盆栽・植木類はEU統一規則を遵守した栽培管理及び検査を実施することとなり、日本から土付きの植木や1.5m以上の盆栽を輸出するには、輸出検査時に植物寄生性線虫がいないことが条件となりました。

このため、線虫防除技術の確立が急務となり、平成21年度から3年間、農林水産省の支援をうけ「植木・盆栽類の輸出促進に向けた線虫対策及び生産・輸送技術の開発」という課題に取り組んできました。この研究には、千葉県、埼玉県の試験場と中央農業技術研究センター、森林総合研究所など国の研究機関、ネマテンケン、横浜植木などの民間企業、

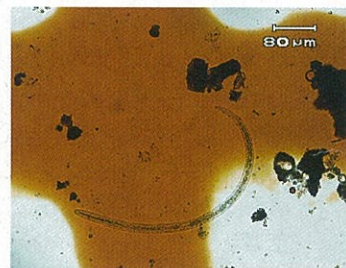
千葉植木生産組合、埼玉県輸出盆栽研究会などの生産者団体が加わっています。輸出の際に最も警戒されるのは、植物病原性ウイルスを媒介するオオハリ線虫、ユミハリ線虫といわれ、ネグサレ線虫も防除が必要と考えられます。千葉県、埼玉県で調査したところ、オオハリ線虫、ユミハリ線虫、ネグサレ線虫の3種類は多くの土壌で発見されました。また盆栽の場合、鉢内の様々なところで生息している事がわかりました。線虫の防除薬剤を検討した結果、フォスチアゼート剤はネグサレ線虫に効果がありましたが、オオハリ線虫、ユミハリ線虫には効果がありませんでした。オオハリ線虫、ユミハリ線虫は、MEP剤で効果が高いものの、ネグサレ線虫にはあまり効果がなく、線虫の種類によって農薬を使い分ける必要があります。薬剤処理は夏の高温期では薬害が発生したため、処理濃度や処理時期には注意が必要です。また、線虫の有無を確認する方法として、従来はベルマン法が用いられてきましたが、最低1日以上要するため、目下すぐに線虫が確認できる方法としてチューブ法が開発されています。花と緑の振興センターでは生産者の方に参加していただき実習を含めた研修会を行い、この研修会の結果をうけ、チューブ法はさらに現場向きに改良され春から製品化される予定です。実用化されると生産現場段階でより簡易に線虫の自主チェックが可能となります。以上、研究成果の一部を紹介しましたが、現在『植木・盆栽類の輸出マニュアル』として実用化研究事業の3年間の成果をとりまとめています。平成23年度末には完成予定ですので、ご希望の皆様にお届けいたします。

千葉植木生産組合、埼玉県輸出盆栽研究会などの生産者団体が加わっています。

輸出の際に最も警戒されるのは、植物病原性ウイルスを媒介するオオハリ線虫、ユミハリ線虫といわれ、ネグサレ線虫も防除が必要と考えられます。千葉県、埼玉県で調査したところ、オオハリ線虫、ユミハリ線虫、ネグサレ線虫の3種類は多くの土壌で発見されました。また盆栽の場合、鉢内の様々なところで生息している事がわかりました。線虫の防除薬剤を検討した結果、フォスチアゼート剤はネグサレ線虫に効果がありましたが、オオハリ線虫、ユミハリ線虫には効果がありませんでした。オオハリ線虫、ユミハリ線虫は、MEP剤で効果が高いものの、ネグサレ線虫にはあまり効果がなく、線虫の種類によって農薬を使い分ける必要があります。薬剤処理は夏の高温期では薬害が発生したため、処理濃度や処理時期には注意が必要です。また、線虫の有無を確認する方法として、従来はベルマン法が用いられてきましたが、最低1日以上要するため、目下すぐに線虫が確認できる方法としてチューブ法が開発されています。花と緑の振興センターでは生産者の方に参加していただき実習を含めた研修会を行い、この研修会の結果をうけ、チューブ法はさらに現場向きに改良され春から製品化される予定です。実用化されると生産現場



栽培中薬剤処理の様子



オオハリセンチュウ



薬剤処理



薬害の様子

できる方法としてチューブ法が開発されています。花と緑の振興センターでは生産者の方に参加していただき実習を含めた研修会を行い、この研

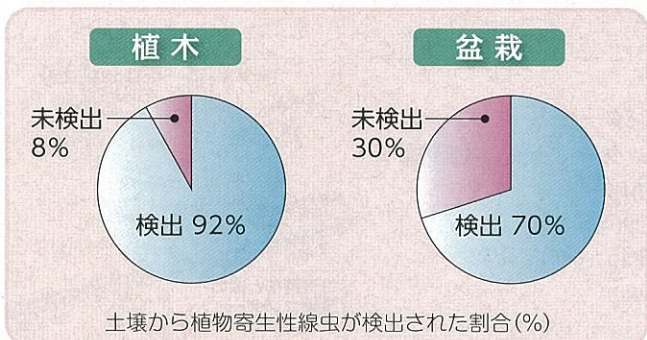
修会の結果をうけ、チューブ法はさらに現場向きに改良され春から製品化される予定です。実用化されると生産現場



研修会の様子(H22)

段階でより簡易に線虫の自主チェックが可能となります。以上、研究成果の一部を紹介しましたが、現在『植木・盆栽類の輸出マニュアル』として実用化研究事業の3年間の成果をとりまとめています。

平成23年度末には完成予定ですので、ご希望の皆様にお届けいたします。



花とみどりのプロムナード

当園は、昭和28年の開設以降、花木の園芸品種の収集に力を入れ、地元生産者を始め、多くの方々の協力を得ながら、初年はサクラ、次年は花梅と地道な努力を重ね、今日に至っています。現在では無い品種も多くみられますが、全体で約2,000品種となっています。そのような中でシンボリックな存在として園の中央にそびえる落羽松（ラクウショウ）とメタセコイアについてご紹介します。落羽松は昭和28年10月フランスで採取された種子を購入し、翌年に種をまき、二年目で70cmくらいの苗木となりました。この苗木は、5本余りを残し当時あった戸田の苗圃へ植えたほか、北足立郡の小中学校などへ配布を行ったと記録されています。昭和38年に戸田の圃場がオリンピックのボート場になることになり、そこにあった苗がさいたま市にある別所沼公園に植えられ、現在大きくなっています。園内には2本が残っており、

地面からはえた大きな呼吸根が見学にくる小学生にも珍しがられています。次にメタセコイアですが、昭和20年、中国の四川省で発見され、生きている化石植物として知られています。昭和23年にアメリカに種子がわたり、日本には昭和24年にアメリカの関係者から昭和天皇に献上され、皇居に植えられたとされています。当園には昭和30年に国の林業試験場から30cm余りの苗の分譲を受け、植栽しています。初期には県内をはじめとするメタセコイアの母樹として活躍しましたが、現在は池のほとりに静かに佇んでいます。



見せる(魅せる)園づくり

花と緑の振興センターは、昭和28年4月埼玉県植物見本園として造園の指導並びに品種保存及び展示を行う施設として設置されました。時代によって組織は変わってきましたが、展示機能は開所以来59年変わらず、現在約2.3haの敷地に約4,600本、2,000品種の植物を展示しています。主な樹種の品種数は、ツバキ・サザンカ類462品種、サツキ・ツツジ類368品種、ウメ136品種等で、そのほか花、実、紅葉など四季折々の表情を楽しめる樹木を多く展示しています。現在では、植木生産者のみならず、広く県民の方々に親しんでいただいています。

そして、この品種展示園を生かすとともに、みどりの楽しみかた等をより多くの方々に知ってもらうため、季節にあわせて、サクラソウやモミジ・カエデ、花梅、椿等の観察会を催しています。

また、都市化が進む埼玉県では、小さいスペースの緑化や今まで緑化していないスペースの緑化に取り組むことによって、都市部にもみどりを確保していく必要があります。そこで、当センターでは『おいしく食べよう緑のカーテン』を合い言葉に、おいしく食べて、楽しく、涼しい新しい緑化を検討しています。特に平成23年度は、東日本大震災の影響から急増したゴーヤやヘチマの栽培についての問い合わせに対応していくため、実際に当センターでも展

示を兼ねて栽培して観察を行いました。今後は、誰でも緑のカーテンを楽しめるよう栽培のポイント等を整理し、まとめていく予定です。

このように、従来の生産者向けの展示ばかりではなく、一般家庭でみどりを楽しむための新たな展示にも取り組んでいるところです。

また、これまで園地管理を職員自らが行っていましたが、平成23年度からは民間に委託して管理を行っています。夏場の除草や園内の定期的な清掃など、これまで手の行き届かなかった所や高木剪定など職員では対応できなかった所も取り組んでもらっています。地元の造園のプロに管理を委託することにより、技術的なことも相談しながら管理することができ、さらに効率的で行き届いた管理ができるようになりました。

今後も、多くの来園者の方々が楽しく、かつ気持ち良く過ごしていただけるよう、展示園としての機能の充実を図り、魅力ある園づくりを進めていきます。



緑のカーテンの室内展示



モミジ・カエデの品種展示

Information

花とみどり

平成24年2月29日発行

発行所／埼玉県花と緑の振興センター
 発行人／埼玉県花と緑の振興センター 所長 佐野誠一
 〒334-0059 埼玉県川口市安行1015
 TEL：048-295-1806 FAX：048-290-1012
 HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k32/>
 E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

